

特集 連動企画

映画「Life in the Twilight」

そのとき確かにあったその事実を、
伝えていかなければならない、
そう強く思いました。

前橋の戦後復興の記憶を追ったドキュメンタリー映画を制作。本市新人職員の下田が、戦争の語り部である95歳の片野久子さんなどを取材。想いを受け取りました。映像は、インターネットで公開中。下記の二次元コードからご覧ください。



戦争の語り部・片野久子さん



祭りの粋専門店マメゼン・岸篤美さん



セキネ洋傘店・関根健一さん

Chapter 2

つらい体験とそこから
人々の思いを演じて
立ち上がった

8月1日と2日に行われた市民ミュージカル「灰になった街」。このミュージカルは、前橋にあった、戦時中の史実を元につくられています。劇中にはミュージカルや音楽など、私たちの心の豊かさにかかせないキーワードがちりばめられています。しかし、戦時中は外国語や西洋の音楽が制限されたこともありました。多様な文化に触れることができないのも、平和だからこそ。
ここでは、「灰になった街」に参加した人たちに、ミュージカルをとおして何を感じたか、戦後復興時に汗を流した人たちへの思いなどについて聞きました。



祖母の戦争体験が
出演の一つのきっかけに



脚本・作詞・演出を担当
新陽一さん 61歳
荒牧町
兼松進さん 75歳

細野 私の曾祖母は前橋大空襲を体験しています。曾祖母が祖母を背負って生き抜いたと聞きました。その時祖母が死んでいたら、今の私はここにいません。前橋大空襲をどうやってミュージカルにするのか、そこに興味がありました。ミュージカルで伝えられることがあれば、と思

演じてみてわかる
生きることの大切さ



国領町一丁目
紺野星香さん 17歳
鼻毛石町
北爪敏江さん 44歳
鼻毛石町
北爪美歌さん 14歳

細野 演じてみて、今の高校生とは一生懸命さが違うと感じました。当時の人はお国のためにと感じて、つ

美歌 私は参加するまで戦争について考えたことがありませんでした。はじめは軍国主義の意味が分からず、本などを読んで勉強しました。演じる中で、ある時、今まで自分がなんとなく生きていた、もっとちゃんと生きなくては、と気付きました。

兼松 戦争は終わった後が悲惨です。生き抜くためにはそれこそ何でもしなくては。私は幼い日の記憶で周りの人が死んでいったのを覚えていま

敏江 劇中で死ぬシーンがあります。その場面で、生死が隣り合わせだということを感じました。また、それくらい真剣に今を生きなくては、とも感じました。

今だからこそ
作品をとおして伝えたい

細野 最初はこのミュージカルで戦争の悲惨さを伝えたいと思っていま

敏江 前橋大空襲を知る世代から知らない世代へ、記憶の継承が大切だと思えます。地元で起こった出来事をリアルに感じてほしい。作品から、今を、これからのどう生きるかを考えてほしいと思います。

兼松 今の平和は先人の犠牲と努力によるものです。70年間平和が続いてきたのもそのおかげです。ミュージカルをとおして、真剣に自分たちのことを考えてほしいと思います。

新 ミュージカルは若い人にも受け入れられやすい、メッセージ性の高い音楽ジャンルです。そのジャンルで、戦時中やりたくてもできなかったことが、平和な時代になつてできるようになった、そのことを強調したかったです。前橋に、ふるさとに空襲があった、そしてそこから立ち上がった人のおかげで今の私たちがいるのです。広島・長崎だけでなく、地元の歴史として知っておいてほしいのです。